31

株式会社 ミューパック・オザキ

樹脂袋の新たなアイデア、工程の知恵、存在感放つ

センターシール式のポーチ

アットホームな本社事務所

学生コラボ商品「閉めるだけ～」

事業内容 プロカメラマン用ネガ袋で創業

合成樹脂フィルム製の袋の専業メーカー。ユニークな仕様の袋をいくつも市場に送り出し、斬新な発想と堅実な技術力が市場で認知されている。後発でチャック付きの袋に参入し、独自仕様の製品を投入し、現在は売り上げの５０％以上を占めている。近年は特許取得にも力を入れ、事業展開の武器として活用している。

会社の振り出しは、プロのカメラマンが使うネガフィルムの袋の受託製造。ニッチ分野の専業として小規模に事業を始め、昭和59年に中堅製袋機メーカーの技術者の髙城竹夫現専務を迎えた。旧来の仕事の縮小傾向に直面し、数をこなして売り上げを確保する受託加工から、顧客の課題を解決する形で付加価値を得ていくスタイルを志向。ダイレクトメール用の封筒袋、コンビニエンス店の什器に合わせたつり下げ袋などを考案。中でも、書籍とCDのセット販売品でCDを収納する不織布を中芯に入れたフィルム袋を広く普及し、同社の名を高めた。小物文具を効率良く袋詰めできる新設計、通販パッケージで２工程を1工程にする合理化提案なども成果を挙げた。

補助事業 どこにでもチャック取り付け可能

今回の中小企業庁の「ものづくり補助金」により、フィルムシートの表・裏の両面に、チャック部を接合する機械の導入と専用スライダー部品の試作開発に取り組んだ。チャック付きの袋は多様なタイプの製品が市場に出回っているが、入れ口は上側という様式が製法上決まっている。そこに表・裏の両面にチャックを接合することが出来れば、袋の中心部をはじめ、任意の位置に入れ口を設定できるようになる。

接合機は大手石化系の樹脂加工メーカーの開発機を導入。表面と裏面のチャックの雄・雌部をかみ合わせる専用スライダーを独自考案した。

今回組んだ大手石化系メーカーとは１０年余り前から、コラボレーションを組む関係。「ミューパック・オザキ」の製袋のノウハウを持ち寄り、後付け式チャックの品質を高め、先行社が多数ある市場で地歩を築いた。そうした両社のコラボ実績から発展して、シート両面にチャックを後付けする新機能の実用化を目指した。

具体的成果 かみ合わせの技術とスライダーのコンビ完成

通称・センターシールと呼ぶ新しいチャック方式は、ダブルドラム式チャック溶着装置、センタースライダー用の金型を導入して開発にあたった。溶着装置は2つのドラム、フィルムを反転させる仕掛けで、表・裏の両面にチャックを接合する。

当初設計で見込みが違ったのは、途中でチャックの雄・雌がはずれる現象。かみ合わせの強度が不十分だった。これを克服するため、コラボを組む大手メーカー側で、かみ合わせ設計を通常の引っ張り方向では外れないよう、荷重の支点を偏位させる仕様を考案した。この結果、通常のような引っ張りでは破断するまで外れないほどのチャックの力を発揮し、開閉スライダーとのコンビが完成した。

かみ合わせの改良を仕上げるために、当初スケジュールと比べやや出遅れたが、一連の開発は整い、平成２８年半ばから営業活動を本格化した。

繊維分野で通常ファスナーを低コストに代替する用法や、文具分野でペンケース、持ち手をつけたファンシーポーチなど、新機能をＰＲしている。センターシールで開発したかみ合わせ設計は、他製品でも応用していく。

今後の戦略 高齢化社会は便利なスライダー式の時代

開閉が便利なチャック付き袋の需要が高まる中でも、スライダー式の需要が伸びると見ている。高齢化社会を背景に、簡単できっちりと間違いなく開閉できるスライダー式は、高齢者にとって身近に生活の安全・安心を支える。

独自方式の開閉パーツ「ミュースライダー」は2つの部材を組み付ける方式。色の違うツートンカラーが簡単に使えるなど、バリエーションも特色。現状は２パーツを手で組み付けており、今後は機械化して、より効率を高める考えだ。

大阪経済法科大学の学生の協力を得た商品「閉めるだけ～」はチャック付き袋のチャックを確実に閉じるのに使う小道具。手で閉めるのでは、確実にかみ合ったかがおぼつかない高齢者らをサポートする。デザインに学生の遊び心を取り入れて、「高齢者と孫のコミュニケーションにも役立つ」と尾崎育子社長は語る。

新製品では自動包装機にかけられる密閉型のスライダー式袋も開発した。食品用を中心に本格的に売り込む。

ユニークな技術を送り出しつつ、人材育成のバランスを見ながら、着実な成長路線を堅持する考え。現本社工場は手狭になりつつあり、新工場の青写真も描いている。

株式会社 ミューパック・オザキ

代表取締役　尾崎 育子

〒581-0042　大阪府八尾市南木の本5−2

TEL. 072−991−1505

FAX. 072−993−9946

資本金／10,000千円

従業員／30名

短納期　企画力　小ロットOK　オンリーワン技術　試作OK

相談いただいたら、必ずいい知恵、納期は厳守

代表取締役 尾崎 育子

お客様から相談を持ち込まれた時には、必ず役立つアイデアを出す会社でありたいと考えています。納期も厳守します。経営信条は「真心、信頼、挑戦」です。

http://mupack.co.jp/

取材を終えて

技術型へ脱皮の足跡、モデルケース

製袋の仕事は大手の元請けから家内工業の零細まで多層構造がある。その中で、技術力を導入して開発型の中小に脱皮していった足跡は中小企業の勝ち残りの1つのモデルと言えそう。送り出した独自アイデアが他社の追随で価格競争に巻き込まれることを幾度も経験し、特許取得戦略も身につけてきた。次世代の技術・経営の幹部候補者の独り立ちが今後のカギとなりそうだ。